

いう動きを支える人材の育成が必要ですね。

小野校長

人材の育成は大切だと思いますが、やっぱり齋藤市長と上西会頭のリーダーシップで、エコシティ宣言を頑張ってもらいたいのです。



会頭を囲んで座談会

富田校長

よく人材育成とか、技術力強化ということを言いますが、それをしようと思ったらターゲットが決まらないとできないし、逆にターゲットが決まれば人材育成とか技術力強化は楽にできます。抽象論でやるから話で終わってしまうのです。

要は舞鶴市が環境産業の創出で、具体的にやることを決めれば、それに必要な人材がどんな人材で、何を勉強し、どんな技術力を強化しなければいけないかと具体的に出てきます。

小野校長

環境教育も、具体的にこうやったら電気代が安くなるとか、お金の話をすれば絶対に効きますよ。CO₂を出さないという教育や、市独自の環境税の実施など、市が頑張ることで環境教育は浸透していくのです。

富田校長

人材育成と技術力については、小学校の授業に取り入れるのがお金もかからず、一番効果があると思います。また小学生に環境・エコ教育をすることが、エネルギーを減らす一つの手段です。地道なことですが我慢すれば効果が現れます。研究でも同じですが、基礎的な事は時間はかかりますが、やれば必ず効果はでるのです。それをしないのが日本人の悪いところ

小野校長

高専もポリテクカレッジも、一つの柱はもちろん優秀な技術者を世に送り出すこと、そして二つ目は地域への貢献ということです。地域への貢献は我々の使命です。だからこの機会に、市や商工会議所とのネットワークをしっかりと作りしたいと思います。

上西会頭

先ほどからお二人の話をお聞きしていて、エコシティやエネルギー基地について宣言とは言えないけれど、新年の挨拶の中で柱に挙げてほしいという気がしています。今後市長とも話をして詰めて行きたいと思います。

商工会議所でも産学連携に取り組んでいきたいと考えています。商工業に関わらず市内の事業所を訪問して、産学連携に結びつく課題を掘り起こせればと考えています。今日は非常に有意義な話合いが出来たと思います。

司会

エネルギー基地や、舞鶴の活性化のための良いお話が出てきたと思います。商工会議所や市役所、そして高等教育機関のそれぞれの立場の方々が協力しながら前に進んでいく。これほど力強いことはないと感じました。最後に一言づつお願いします。

富田校長

教育について一つお話ししたいのは、先ほども言いましたが、やはり小学生のときからきちんとしたことを教えるということが非常に重要です。

エコの街にするためには、市民が環境について正しい認識を持たないとだめですが、学校で環境教育を受けた子供達が、家に帰ってお父さんお母さんに、ちょっと電気消せよ、熱いけどクーラーをやめとか、というと変わってきます。地道であるけれどもそういうことが良いのではないかなという気がします。それとエコシティ宣言をするのが一番良いと思います。

また現在、ポリテクカレッジ存廃の問題で、国がやるか、地方がやるかという議論がされていますが、私は国がやるべきだと思っています。なぜかと言ったら、日本は無資源国と言われていますが、

人材資源においては世界でベスト3に入ると思います。ですから日本が生き残るためには小学校教育も含めて、これからの日本は国民をいかに教育し、立派に育て上げ、社会のために活躍してもらうかを考えるべきです。

小野校長

私が心配しているのは、昨今の教育状況とか学生を見ていると、昔より良い教育が出来ているとか、良い学生が育っていったりとかの感覚が希薄になってきていることです。アジアの大学と比べても、最近では追い越されて来ています。

国がきちんとした方針を立てて、優秀な学生にお金を出して教育するべきです。日本人は優秀だからなんとか頑張っているけれども、世界に置いて行かれつつあるのが見えてきて私は心配です。今日の話とは異なりますが、日本は今教育改革が必要だと思います。

最後になりましたが、水素の時代は意外に早く近づいているようです。水素時代に対応して、舞鶴が大きな役割を果たし、舞鶴が大いに発展することを期待しています。

司会

本日は大変良いお話をさせていただきました。ありがとうございました。



司会 廣瀬久哲

【エコシティ】

1992年の地球サミット以来「環境と調和した持続可能な社会づくり」が国際社会のキーワードになり、より良い環境をつくりながら、健全な地域経済と共に発展するまちの姿が「エコシティ」なのです。その実現には社会システムやライフスタイルの変革が必須です。